

FCP 第1回若手フォーラム 議事概要

～食の安全・信頼の観点から企業行動を考える～

日時：平成30年7月6日（金） 13:30～17:30

場所：農林水産省本館7階 共用第1会議室

参加者：24事業者・団体 計42名

議事次第：

1. 開会挨拶
2. フード・コミュニケーション・プロジェクトについて
3. フォーラム趣旨・概要説明
4. ワークショップ ～ベーシック16を記入してみる～
 - 協働の着眼点・ベーシック16の説明
 - 自己ワーク
 - 意見交換・グループごと発表
 - 解説・次回に向けて

議事概要：

第1回若手フォーラムでは、フード・コミュニケーション・プロジェクトと本フォーラムの趣旨・概要について事務局から説明した後、ファシリテーターの田井中様の主導のもと、ワークショップを行った。

ワークショップの概要は、以下のとおり。

【ワークショップの概要】

ワークショップでは、協働の着眼点・ベーシック16について田井中様からご説明いただき、参加者が自社の取組をベーシック16に記入した後、その記入した内容について、グループ内で共有・意見交換を行った。

意見交換の後、A～Fのグループごと、ベーシック16の項目の中で、意見が多い項目及び少ない項目を発表したところ、下表のとおりであった。

	ベースとなる 価値観と行動		社内に関する コミュニケーション				取引先に関する コミュニケーション			お客様に関する コミュニケーション				緊急時に関する コミュニケーション		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
A	1	16						3	10	10		1				
B		10	6	4					1		1		1			
C		7	4	6		4		1	0						1	1
D	11		11	8			2		6			1	8			1
E	5	5	8	4	4				1	4	1	1			0	
F	7	6	7	2	2	2		2	2	5	2		2	2		

※赤塗りの項目：意見が多い項目。青塗りの項目：意見が少ない項目。数字は出た意見の数。

この結果を踏まえ、グループごと、「意見が多く出た項目の中で、共有すべき良い取組」と、「意見が少なかった項目について、なぜ少なかったのか」について意見交換を行った。意見交換の後、グループごとに、特に取り上げる意見を中心として、発表を行った。発表の内容は以下のとおり。

【意見が多く出た項目の中で、共有すべき良い取組（意見）】

- ・ [A グループ]・・・「2. コンプライアンスの徹底」についての意見が突出して多く出た。その意見の中で特に取り上げられるのは、アラート室という部署があつて、コンプライアンス違反を発見した際に内部告発できる部署がある会社があつたこと。
- ・ [B グループ]・・・「2. コンプライアンスの徹底」の項目で良い取組があつた。ある会社では、職場において6～7人のチームを作り、コンプライアンスに関するミーティングをしているという発表があつた。各社ミーティングは様々行っているが、テーマをコンプライアンスに絞ったミーティングは先進的な取組であると感じた。
- ・ [C グループ]・・・「4. 調達における取組」の項目で、トレースシステムの取組として、原料の入れ忘れや間違いをなくすために、二次元バーコードを使用した取組を行っているとのことで、良い取組ではないかと感じた。
- ・ [D グループ]・・・「1. お客様を基点とする企業姿勢の明確化」の意見が多かった。その項目について意見交換をしたところ、お客様の安心のために何が必要かとなると、安心は人それぞれの考え方であり、それを満たすのは難しいが、相手を安心させるにはまず自分が安心できるような取組が必要ではないか、という意見があつた。
- ・ [E グループ]・・・「2. コンプライアンスの徹底」の項目で、全従業員にコンプライアンスに関するアンケートを行い、結果をまとめてフィードバックする取組を行っている企業があつた。
- ・ [F グループ]・・・1. と2. の「ベースとなる価値観と行動」について、意見交換をしたところ、各社お客様基点やコンプライアンスの意識をしっかりと持っていたが、会社の業種によって、注力することや特徴がかなり違っていたことが分かった。

【意見が少なかった項目について、なぜ少なかったのか】

- ・ [A グループ]・・・意見が少なかった項目まで、時間内に意見をまとめることができなかつた。
- ・ [B グループ]・・・「お客様に関するコミュニケーション」への意見が少なかった。これは、グループのメンバーに製造や卸が多かつたので、お客様の情報を収集する等の取組に係る部署でないことから、意見が出にくかつたのではないかと思われる。
- ・ [C グループ]・・・「取引先に関するコミュニケーション」への意見が少なかった。グループのメンバーに品質管理担当者が多く、購買や営業サイドの意見が出にくかつた。
- ・ [D グループ]・・・「取引先に関するコミュニケーション」への意見が少なかった。各社取引先を管理する仕組みは持っているが、一方的に管理するだけではダメで、取引先との協働の取組となると、意見が出にくかつた。
- ・ [E グループ]・・・「15. 緊急時の自社と取引先との協力体制の整備」の項目で意見が全

く出なかった。時間が足りなかった面もあるが、緊急時の対応についてメンバーの経験が少なかったことが大きいと思われる。

- ・[Fグループ]・・・「取引先に関するコミュニケーション」への意見が少なかった。その理由は、取引先対応の経験が多いメンバーが少なかったためではないか。

【田井中様より、解説・次回に向けて】

- ・各グループで「2. コンプライアンスの徹底」への意見が多いのは、この10年の特徴、時代の流れでもあると思う。この10年でコンプライアンスへの対応が大きく言われるようになった。内部告発についての意見もあったが、企業内で情報を共有し体制を整備していこう、という動きがここ数年非常に強まっている。
- ・「緊急時のコミュニケーション」への意見が少ない理由は、広報系のセクションに属している方が少ないためとも考えられる。
- ・「取引先に関するコミュニケーション」「お客様に関するコミュニケーション」への意見が少ないのは、時間が足りないという理由もあると思うが、外部とのコミュニケーションがまだ弱い、経験が少ないのではないかと感じる。
- ・次回の第2回では、3人の講師の方をお招きするが、①社会環境や消費者意識の変化、②食品事故と食品事業者の課題の変化、③お客様対応やその課題の変化等についてのお話をしていただく予定。その上で皆さんに協働の着眼点をもう一回見てもらい、どこに改善ポイントがあるのか等について議論をしていただこうと思う。
- ・FCPは、フード・コミュニケーション・プロジェクトであり、まさにコミュニケーションが大切。コミュニケーションしながら、食の安全・信頼を消費者にどう届けていくのかについて皆さんが考えることが重要。今回のように、皆さんで話をして考えていくことが、まさにこのFCPの趣旨でもある。今回は皆さんの議論が活発でとてもよかった。次回も引き続き積極的な意見交換をお願いします。